

# こどもとみんなを結ぶもの

## ——国立民族学博物館

さ お と め けんじ  
五月女 賢司 民博 機関研究員

10種類19パックある「みんなぱく」の内のひとつ  
「インドのサリーとクルター」



近年、学校と博物館の連携の重要性が叫ばれている。小学校で二〇一一年度から、中学校で二〇一二年度から完全実施される新学習指導要領には、博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るべきことが明記されている。一方、一般来館者として博物館を訪問する知識や経験の異なるこどもたちが、資料や展示と能動的にかかわることで、そのこどもなりの発見や経験をできる学習プログラムも充実している。

### さまざまな学習機会

みんなぱくでも、これまで学校や一般向けにさまざまな学習機会を提供してきた。「夏休み子どもワークショップ」や「みんなぱく移動博物館」の取り組み、「もの広場」の公開、「学習コーナー」の開設などがある。また、二〇一一年前後からは学校との連携をより重視した取り組みも始めている。ここでは、みんなぱくが現在おこなっている、こどもを含む利用者向けの活動をいくつか紹介したい。

「みんなぱく」は、試着できる民族衣装の他、生活用具や学用品、楽

器などが入った貸出用の学習キットである。二〇一〇年九月に貸出が開始され、まる八年が経過した。これまで、小中学校の授業での利用を中心に数多くの団体に利用され、大学のゼミや市立博物館への貸出の例もある。

学校教員向けのものとしては、今年で六回目となった「博学連携教員研修ワークショップ」や、毎年春と秋に開催している「遠足・校外学習 事前見学&ガイダンス」があり、これらも間接的ではあるが、こどもとみんなぱくを結ぶ大切な取り組みとなっている。

### 両者を結ぶあらたな動き

二〇一〇年四月には新しい「こどもパンフレット」が完成した。小中学生用のパンフレットは一九九七年三月から配付してきたが、小中学生と中学生の計九学年を対象としていたことや、館内案内が中心で学習支援を目的としたものではなかったことなど、課題があった。そのため、新しいパンフレットの対象は原則小学生とし、中学生には大人向けのものを配付することにした。また、館内案内を中心とし

つつも、パンフレットの内容と連動させた付属解説シートを今後作成し希望者に配付することで、こどもたちの学習支援につなげたいと考えている。

みんなぱくの社会連携の動きは、創設とともに始まった。しかし、こどもの博物館における学びには多様な要素が絡み合っており、現代的な課題を踏まえた教育学の視点と実践が必要である。こどもたちのための学習機会の確保と、その質の向上を目指して、今後もみんなぱくの挑戦は続く。



「博学連携教員研修ワークショップ」で仮面づくりに挑戦する学校教員たち